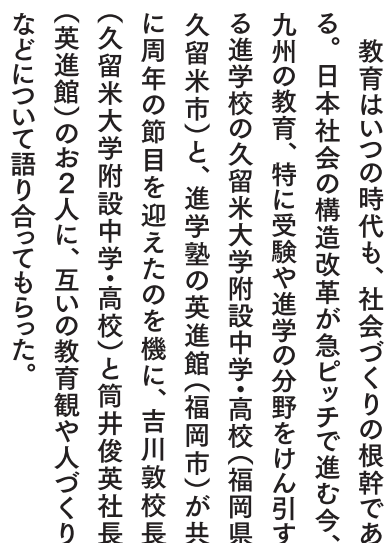




最大目標は自立した社会人の育成



ついつい・としひで 1969年生まれ。久留米大学附設高校、東京大学工学部を卒業後、92年に英進館に入社。3年間、算数科教師として教壇に立った後、95年に九州大学医学部に入学。同部を首席で卒業し1年間、同大学付属病院に内科医として勤務後、英進館に復帰。2004年から代表取締役社長。

た。これは何を意味するか。今の20代の人たちが40代、50代になり、社会を仕切る立場になったときに、海外に同じ釜の飯を食った友人がいない、ネットワークを持たないという状態になることを意味するので。日本人が海外の大学に行かない怖さは20年後に出てくる。つまり、そのときには世界的な企業では日本人は指導的な地位にいないという状態になってしまうかもしれないということです。

今の子どもたちには、自分が25年先に何をやっていきたいのか、分からないなりに描き、そのためには、どこで、何を勉強したらいいか、あるいは経験を積んだらいいか、よく考えて、海外にも積極的に出たりしてほしいと思いますね。

成功を素直にたたえ
切磋琢磨を怠らず

目標を持たせる教育で生徒のやる気を引き出す

――筒井社長から見て、母校でも設中学・高校は、どんな学校ですか

筒井 一言でいえば、意識が高く生徒が集まってくる学校です。というわけがツガツと勉強ばかり、というわけ

―筒井社長から見て、母校でもある附設中学・高校は、どんな学校ですか。

先生と生徒の距離感が非常に良かった。ですから附設時代の友人とのきずなは、今でも深いんです。

—吉川校長は2年前に就任されましたが、附設中学・高校の教育観、目指す人づくりの柱は何でしょうか。

吉川 本校は「国家社会に貢献しよう」とする。為他（いた）の気概を持った誠実な努力の人物の育成」を建学の精神として定めています。「為他の気概」とは「正法眼蔵（しょうぼうげんざう）」という書物の中の神師の言葉で、他の為（ため）に泥だらけになる分かつていても、あえて飛び込んで努力する、ということを意味しているようです。つまり、他人のために尽くそうとする信念が、とても強いのでしょうか。初代校長・板垣退蔵（いたがへひさざう）先生をはじめ、歴代校長がこの趣旨のことを強調してきた歴史的背景が本校にはあります。



りますね。

教育方針に沿って、私も努めているところです。

ら、いわゆる深根深固のわざを成就することにある」とあります。深く掘り下げて本質が分かるように教えるのが教育の本質だと。さらに原先生は「生徒らが励むこと」に学校はある。この言葉を忘れてはならない」とおっしゃっています。為他の気概、自ら励む生徒たちがいて初めて学校が成り立つのだといった附設の建学の精神と

て、企業の数も規模も大きくはありません。ですから、大企業または国の中枢でばりばり働くイメージもわきつらぬ、目の前に目標を持たせにくいところがあるのではないのでしょうか。「ギヤリア教育」を通して生き生きとした大人の姿、魅力的な仕事などをたくさん伝えたいですね。

— 附設中学・高校も自主性を重視した自由な雰囲気があるような印象ですが。

吉川 人づくりという点では本校は自

主自得を大事にしています。ただし、主自得とは原則があつての自主自律であつて、わがまま勝手ではありません。生徒同士が切磋琢磨せよとたくましくし合ひ、本當に自分のやりたいことは何か、洞察力を高く、しつかり考え抜いて、その方向でいこうと決めたら目先にとわかれず自分の道を進むを信じて進む。そういうことを身に付けてくれたら何もういふことはないですね。

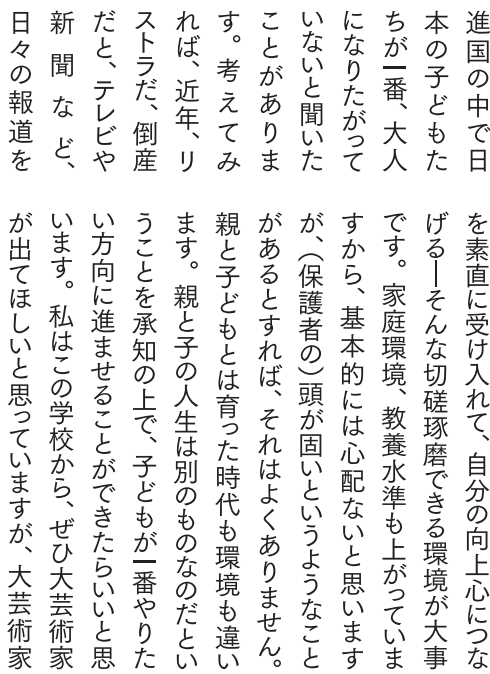
学力向上への意欲は
家庭や周囲の環境次第

—学力低下も指摘される今の子ども
の教育環境をどう考えますか。

筒井 近年は子どもの学力・体力、規範意識の低下が指摘されますが、少なくとも英進館に通う子どもたちは変わってないと感じます。努力家でまじめで。むしろ

ろ、変わったのは子どもを取り巻く親（大人）、環境（社会）の方かもしれません。先

為 彼の気概と本質を見抜く力を



通じ、ネガティブなメッセージばかりが子どもたちに伝わっています。「大人ニきつ」という誤ったイメージが、子どもたちに浸透してしまっているのではないのでしょうかと考えています。

筒井 子どもの意識を高めようと「あ

子どもと接する身近な大人として、あこがれや目標になる存在でありたいと思っています。そのためにも生き生きと輝いて仕事に取り組んでいる姿を子どもたちに見せたい。私たちがの姿を見て、「大人っていいもんだ」「早く大人になりたい」と希望を持ってもらえたら非常にうれしいです。夢を持った子どもをはぐくむためにも、未来に対して前向きになれる環境が大切です。

の子に負けないように「もっと上を目指さない」などと、大人が押しつけてばかりでは駄目だと思います。私たちが小さかったころは、人生目標や人格形成に重要な役割を果たした「偉人伝」をよく読んだと思いますが、子どもたちは二宮金次郎や野口英世のような人物がすごく努力して、すごいことを成し遂げたことに純粋に共感し、影響を受けますよね。ですから家庭に

吉川 私は四半世紀余り前に1年ほどアメリカ中西部の大学で客員教授をいたしました。かつては企業を休職してでも留学する日本人が必ずいました。3年ほど前に久しぶりにアメリカの大学を訪ねましたが、日本人学生は1人もいませんでした。

子どもは親の接し方、身近な大人の接

おいても、宇宙飛行士でもスポーツでも何でもいい、テレビやニュースで知った出来事にも素通りするのではなく、「すごいよね」「本当に努力したんだね」と頑張ったことをたたえる会話ができたといいですね。

し方ひとつで大きく変わると思います。切磋琢磨というのは、認め合うところからしか出てきません。相手を褒め、たたえることのできるお子さんは切磋琢磨していけると思います。

—最後に一言ずつお願いします。

吉川 これからも良い生徒をたくさん送り出してください。子どもたちの将来の希望がかなうよう努めたいと思います。

筒井 九州の中でも附設は以前にも増してあこがれの学校になっています。英進館でも附設を目指すお子さんたちは、皆とても努力して頑張っていますので、私たちも全力で支援していきたいと思っています。



よしかわ・あつし 1942年生まれ。東京大学理学部数学科卒業。同大学大学院修了。理学博士。85年から2006年まで九州大学教授。08年4月から久留米大学附設中学・高校校長。

6/20

(日)

久留米附設中模試

形式・解答用紙・試験時間・配点
にいたるまで全て久留米附設中学
入試を想定して作成!!

英進館にお通いでない方も
受験できます。
お気軽にお申込みください。

抜群の合格実績と問題的中率が証明する久留米附設中受験者には欠かせない公開模試

■時間／9:00～13:00 ■受験料／4,000円(税込)

■科目／国語・算数・社会・理科

■会場／英進館TZ各教室 (天神本部・薬院本部・西新本部・香椎本部・春日本部・小倉本部・折尾校・久留米本部・佐賀校・長崎校・大分校・熊本本部・鹿児島校・谷山校)

2010
英進館
合格実績

合格者数17年連続No.1!!

久留米附設中105名

久留米附設中学
全合格者187名に占める割合
合格者の
半数以上が英進館!!



56%

過去最高60名突破!!

ラ・サール中65名

英進館附設中と同一入試。
重複合格なし!!

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格実績

英進館
合格